

## 修学旅行

修学旅行が終わって、早いもので2週間が過ぎようとしています。

皆さんにとって、「楽しかった」と言えた修学旅行になりましたか。修学旅行を前に「楽しい修学旅行だった」と言えるために、『主体性』、『我慢』、『真剣』の三つのことを意識した行動をとってほしいと繰り返し伝えました。解散式での皆さんの表情を見ると、「楽しかった」という思いが表情に表われていたので、『主体性』、『我慢』、『真剣』を意識した行動をとってくれたのだと思うことでした。



修学旅行では、戦争や平和について深く考えたり、快適な修学旅行となるために多くの人たち(保護者、友だち、添乗員、看護師、バス運転手、バスガイド、ホテル従業員等)に支えられて成り立っていることに気付いたり学ぶことが多かったと思います。

校長先生が「教育は変ることである」とおっしゃいました。二泊三日の修学旅行で学んだことを生かして、これからの学校生活がより良いものとなるように変化してほしいです。

## ペリリュー

今週末に文化祭が迫ってきました。

二年生の総合劇「ペリリュー」は、『平和とは何か。大事な人を守るため 大事な祖国を日本を守るため 命をかけた人たちの戦い～ペリリュー～ 戦争の悲惨さを平和の尊さを かつてもっていた日本人の強さを 日本人としてどう生きるか』を考えるため、また観ている人たちにも考えてもらうための総合劇となっています。

戦後74年経った今、戦争体験をした人による戦争の悲惨さや平和の尊さを語る語り部さんが高齢化に伴い少なくなっている現状があります。

このことで、戦争の悲惨さや平和の尊さを考える機会が少なくなり、やがては同じ過ちを繰り返すのではないかという心配、そうならないために次の世代にどのような形でつないでほしいのだろうかという課題があります。

90歳を超えた内田さんによる平和講話を聞いてわかったように、実際に戦争体験をした人の話には重みがあり、より一層戦争の悲惨さや平和の尊さを感じることができました。しかし、将来的には、そういった方から直接話を聞くことができなくなります。

次の世代でも戦争のない平和な世の中が続いていくように、私たちは考え、行動しなければいけません。その手段の一つが文化祭で行う総合劇「ペリリュー」だと思います。劇を通して戦争の悲惨さや平和の尊さを深く考える、考えてもらうものにしていきましょう。

